

医療法人社団松弘会 二愛病院

脳の機能維持を重視した脳腫瘍手術や 脳血管障害治療を中心とする救急医療で 患者に最善の脳疾患治療を追求

機能の温存を心がける 高度な脳腫瘍手術

日本人の代表的な死因である脳疾患は、脳腫瘍と脳血管障害に大別されるが、両方において実績を持つ医療機関は数少ない。三愛病

院は、中規模の病院でありながら、両疾患において高度な治療を実践している。

小原琢磨医師を中心に行う脳腫瘍手術は、同院の技術の高さが特に表れている。「脳腫瘍は治療技術が進歩して大幅に生存率が向上

し、現在では脳機能の維持も重要になっていきます」。その語る小原医師は覚醒下手術、ナビゲーションや電気生理学的検査を用いた手術、腫瘍を発光させる術中蛍光診断など、最先端治療を駆使し、脳機能の温存

に細心の注意を払っていく。他の高度な取り組みとして、四方聖二医師の行うガンマナイフによる定位放射線治療がある。これは、複数の弱い放射線を集中して照射して病変に選択的にダメージを与える治療だ。大きな病変への適用は限定されるが、奥深くに生じた腫瘍や複数生じた腫瘍を効果的に治療できる利点を持つ。「治療は比較的短時間で身体的負担が少なく、特に多発性の転移性腫瘍に効果の高い治療です。ここ数年、近隣医療機関との連携の強化により、益々多くの患者さんをご紹介頂いています」と四方医師は語る。11年8

理事長 済陽 輝久

わたよう・てるひさ ● 1975年、東邦大学医学部卒業。85年に三愛病院設立。97年、医療法人社団松弘会理事長。1993年に埼玉県で先駆けて腹腔鏡下手術を実施。2005年2月に当日立位、歩行が可能な人工骨頭置換術を学会で発表している



脳神経外科部長 小原 琢磨

おばら・たくま ● 1990年、浜松医科大学卒業。2006年10月、三愛病院に勤務。脳神経外科部長。埼玉医科大学総合医療センター非常勤講師。自治医科大学附属さいたま医療センター脳神経外科非常勤医師。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医



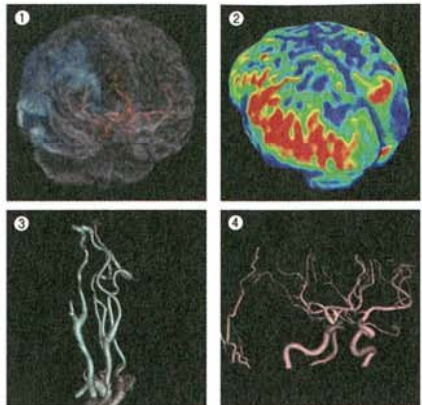
さいたま ガンマナイフセンター 脳神経外科部長 四方 聖二

よも・しょうじ ● 1997年、信州大学医学部卒業。医学博士。2009年、三愛病院に勤務。東京女子医科大学病院非常勤講師。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医



それを防げるという。脳血管障害は救急搬送の理由として特に多い上、3時間以内に行うことで脳梗塞に効果を発揮するt-PAの使用も含め、迅速な対応が求められる疾患でもある。

そのため、同院では救急医療体制を整え、積極的に救急患者を受け入れている。「脳血管障害専用の集中治療室であるSCUを設置するなどの体制を整えて以来、当院への救急搬送は増え続



- ①特有の薄いスライスで撮像し、ワークステーションにて解析することによって、梗塞部分と脳血管との関連性が3D画像にて確認できる(青色=梗塞部分)
- ②MRI3.0テスラによる3D-ASL(非造影)で脳血管障害における血行動態の評価が可能。腫瘍の血管造影や放射線治療前後の効果判定にも適用が考えられている
- ③頸動脈内膜剥離術(CEA)。進行した内頸動脈狭窄症に対して内膜剥離術を行った。3D-CTAで撮影
- ④浅側頭動脈-中大脳動脈吻合術(STA-MCA)。右大脳半球虚血に対して血行再建術を行った。MRI1.5テスラ(非造影)で撮影

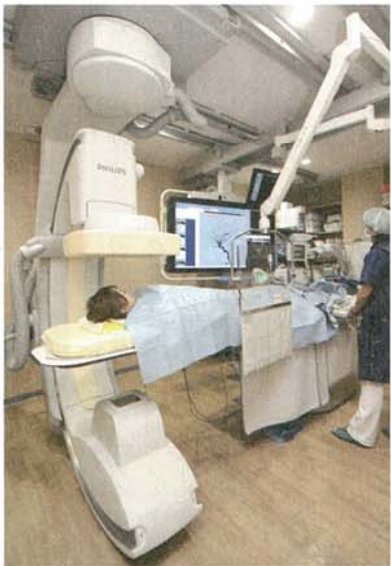
けています」と語る猪野裕通副院長。同院では、t-PAに加え、脳出血やくも膜下出血に対する開頭手術・血管内治療などの手術・治療を24時間365日体制で可能にしている。その体制で重症患者まで受け入れてきたことが地域の信頼につながっているのだろう。医師や設備に加え、看護師や放射線技師などのスタッフによる充実したサポートも救急医療を支える大きな要因だ。「当院では、スタッフの協力により、医師を支えるシステムが細部にわたって練り上げられています」と救急部長の平澤研一医師は強調する。例え

ば、同院では常時、高精度な画像の得られる最新MRIや3DCTでの検査が可能。携帯機器を通じて、医師が診断画像を常に確認できるようになっており、適切な治療を即座に判断することができ。スタッフ各自の疾患に対する理解も深く、放射線技師が画像作成時に異常を発見して医師に伝えたり、適切な蘇生処置を看護師自ら判断したりするなど、医師の具体的な指示がなくても状況に応じた対応が可能だ。さらに、積極的に専門看護師の資格を取得するなど、スタッフ全員が高い水準で研鑽も積んでおり、病院もそれを支援している。

患者を全員で診断し 最善の医療を追求

同院では、救急搬送そのものを防ぐ取り組みにも力を入れており、疾患について啓発する講演会を開くほか、脳疾患を診断する脳ドックも提供する。脳ドックでは、一般的に診断画像は1人の医師で読影されるが、それを医師全員で行っているのが同院の特徴だ。「全員で見ることによって正確な診断を目指すだけでなく、お互いが切磋琢磨していけるのです」と済陽輝久理事長はその理由を語る。

こうした医師が協力する姿勢をすべての診療科で徹底しており、科を超えて連携することも多い。この小回りの利く体制が、全身管理をするためには大切だという「高齢の方は、全身に疾患が生じやすくなっています。一人ひとりが専門分野以外の知識も持つと共に、各科で連携することが大切なのです」。同院では、医師・スタッフがお互いに協力し、患者にとって最善の医療を追求している。取材/鈴木健太



血管の状態や血流を調べる最新の血管造影X線診断(DSA装置)。血管内治療に活用される



副院長
猪野 裕通
いの・ひろみち ● 1988年に滋賀医科大学卒業後、東京女子医科大学勤務。96年～98年に米国のアーカンソー州立医科大学脳神経外科へ留学。2008年より三愛病院に勤務。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医



救急部長
平澤 研一
ひらさわ・けんいち ● 1990年、香川大学医学部卒業。2009年より三愛病院に勤務。日本脳神経外科学会認定脳神経外科専門医



Information

診療科目：外科、整形外科、脳神経外科、内科、循環器内科、消化器内科、リハビリテーション科、放射線科、形成外科、消化器外科、泌尿器科、麻酔科(長野治和)、呼吸器外科、歯科、リウマチ科、心臓血管外科、皮膚科

病床数：126床
診療時間：月～金 9:00～17:00
土 9:00～12:00
休診日：日・祝

〒338-0837
埼玉県さいたま市桜区田島4-35-17
TEL.048-866-1717(代)
FAX.048-866-1865
<http://www.sanai.or.jp/>



人工骨頭置換術
当日歩行の動画が
見られます▼

